

学校保健

S C H O O L H E A L T H

2025.11 No. **375**

公益財団法人
日本学校保健会
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

<https://www.hokenkai.or.jp/>

健康教育・食育課の総合教育政策局への移管について

文部科学省 総合教育政策局 健康教育・食育課長 **かしはら てつや** 榎原 哲哉

皆様には、日頃から、学校保健の充実のため御貢献いただいていることに、御礼申し上げます。近年の社会環境や生活環境の変化は、児童生徒等の心身の健康に影響を与えており、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、薬物乱用など、多様な課題が生じ、児童生徒等が抱える健康課題は、複雑化しています。また、学校の定期健康診断の見直しが求められるなど、時代に即した児童生徒等の保健管理の必要性が指摘されているところです。

こうした中、文部科学省では、令和7年10月に組織再編が行われ、学校保健や健康教育について所掌する健康教育・食育課が、児童生徒等の健康の保持増進の着実な実施や、学校段階を横断した司令塔としての役割を果たす観点から、初等中等教育局から総合教育政策局に移管されることとなりました。健康教育・食育課が所掌する学校保健安全法については、初等中等教育段階の児童生徒等に限らず、大学など高等教育段階の学生等も対象とするものであり、今後は総合教育政策局において、より実態に即した対応を進めてまいります。

児童生徒等が抱える健康課題を解決するためには、学校、家庭、地域が連携して対策に取り組むことや、児童生徒等が自らの健康を適切に管理し、改善していく力の育成等が重要と考えており、学校保健の果たす役割がこれまで以上に大きくなっています。

文部科学省としては、これまでも、養護教諭の業務支援体制の強化、公益財団法人日本学校保健会を通じた学校保健の取組の参考となる資料の作成・周知、持続可能な保健管理の在り方について検討する有識者会議を新たに開催するなどに取り組んでいます。この度の、組織再編の趣旨も踏まえ、児童生徒等の心身の成長や発達、生涯にわたる健康づくりの充実に資するよう、引き続き、学校保健の推進に取り組んでまいります。

皆様におかれましても、一人一人の子供たちが生涯を通じて健康な生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、日々の実践に取り組んでいただきますようお願いします。

主な誌面

学校で育つ口腔機能……2
全国健康づくり推進学校表彰校の実践④……3
横浜市立青葉台中学校……4
シリーズ⑩「健康教育をさぐる」～学校薬剤師の現場から～……5
揮発性有機化合物(エチルベンゼン)……6
室内濃度指針値改定と学校薬剤師の対応……7

医学生によるがん教育推進協会活動のご紹介……8
令和7年度各地区ブロック大会報告……11
全国学校保健主事会の活動……12

日本学校保健学会 第71回学術大会のお知らせ

2025年11月28日(金)から30日(日)までの日程で、一般社団法人日本学校保健学会第71回学術大会を千葉大学において開催いたします。学術大会長は、千葉大学名誉教授であり、現在は放送大学千葉学習センター長である高橋浩之先生です。学術大会のメインテーマは「教育としての学校保健を加速する」です。学校保健という仕組みが学校という子どもたちが学び、発育・発達していく教育の場における保健活動であることを大切にしているという高橋大会長の熱い思いが込められています。

プログラムは、シンポジウムやワークショップ、研究発表のほか、幅広いテーマを扱った教育講演、スポンサードセミナーも積極的に組み、とても充実した内容となっています。当日は、一部の内容をライブ配信で視聴することも可能です。しかし、せっかくの対面の機会ですので、是非、会場まで足を運んでいただき、研究や最新の情報について参加者同士で活発にディスカッションしていただきたいと考えています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■ 大会会場 千葉大学 西千葉キャンパス (〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1丁目33番地)

■ 大会HP <https://web.apollon.nta.co.jp/jash71/>



回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	栄養士・学校薬剤師	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

学校で育つ口腔機能

日本学校歯科医会 理事 土岐 志麻

学校現場の関係者ではすでにかなり前から問題になっていた「お口ぼかん（口唇閉鎖不全）」（写真1）は2014年の調査では約3割の子どもに見られることが報告されていた。¹⁾ コロナ禍でのマスク生活も原因の一つと考えられるが、コロナ禍後の同様の調査では、約4割の子どもに「お口ぼかん」が見られるようになった。²⁾ さらにこの割合は大人になっても変わらないことも報告されている。³⁾

この「お口ぼかん」は何が問題なのだろうか？「見た目が悪い」と保護者は気にすることが多いが問題はそこではなく、子どもの成長発育に大きく関係してくることにある。「お口ぼかん」の子どもの多くが、お口で息をする「口呼吸」である。そしてこの口呼吸を行うことで様々な問題が生じる。



写真1 お口ぼかん

口呼吸のデメリット⁴⁾

1. 肺にウイルス・細菌が侵入しやすい
2. 唾液が減少し、細菌が増殖する
(歯周病・むし歯・口臭)
3. 集中力欠如・成績不振
4. 睡眠障害の原因である可能性
5. 前歯の突出を伴う不正咬合、交叉咬合、開咬など

さらに「お口ぼかん」は、くちゃくちゃ食べる、丸のみしているなど食べることに問題を生じているということが分かっている。これは咀嚼（咬む）がうまく行われず、唾液と食物を混じり合わせ、消化作用のある唾液の働きも十分ではないことから消化吸収にもよくないと思われる。「お口ぼかん」は舌の位置がいつも下にあり、嚥下する際に舌を突出することが多い（乳児型嚥下）。これが歯列咬合にも影響を及ぼす。

学校現場では、まず姿勢正しく食事をする習慣を付け、食事に集中する時間を作っていただきたい。咬むことに集中してもらうことでも咀嚼率は上がる。そして、箸をしっかりと持てないと、口にかきこむように食べるため、本来の一口量より多く口腔内に入り、十分な咀嚼が難しい。（写真2、3）学習の場で、背筋を伸ばし、口は閉じ、正しく鉛筆を持つということが「食べる」教育にもなる。鉛筆の持ち方は箸の持ち方の基本に似ているため、正しい鉛筆の持ち方ができないと、2本の棒（箸）を上手に持つことは難

Li^+

また舌を口蓋につけて嚥下する成熟型嚥下も習得する機会があれば、さらに子どもたちが健康な「健口」を得ることができるだろう。筆者が所属する会で制作した、お口の体操と全身運動ができる「はっけよいアニマル体操」(資料)を推奨する。朝の会などでお口の部分の体操だけでも行ってみたい。

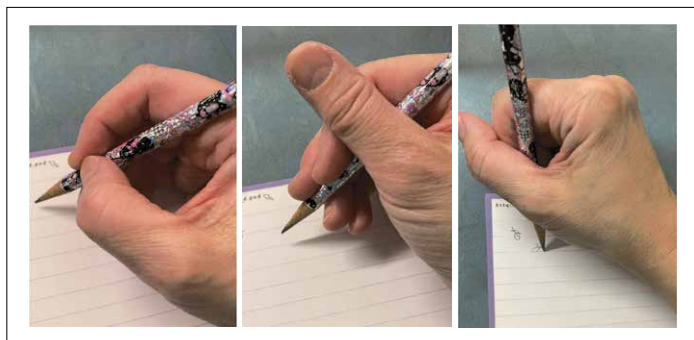


写真2 鉛筆の持ち方



写真3 箸の持ち方が正しくない子には「お口ぽかん」の子どもが多い印象がある(筆者)



http://www.jspp.net/34_movie.html

- 1) Nogami Y, Saitoh I, Inada E, Murakami D, Iwase Y, Kubota N, Nakamura Y, Kimi M, Hayasaki H, Yamasaki Y, Kaihara Y. Prevalence of an incompetent lip seal during growth periods throughout Japan: a large-scale, survey based, cross-sectional study (日本における発達期小児の口唇閉鎖不全の有病率：横断の大規模アンケート調査). *Environ Health Prev Med.* 2021 ; 26 (1) : 11.
- 2) 福井朝聖, 海原康孝, 野上有紀子, 鶴飼れいら, 稲田絵美, 坂田健輔, 堀百合彩, 大島亜希子, 岩瀬陽子, 齊藤一誠. コロナパンデミックは小児の口唇閉鎖不全を増加させたのか？小児歯科学雑誌. 2024 ; 62 (suppl-2) : 171.
- 3) 海原康孝, 永岑光恵, 稲田絵美, 村上大輔, 野上有紀子, 加藤智樹, 松川千夏, 山崎要一, 齊藤一誠. 成長期終了後には口唇閉鎖不全症が減少するか？小児歯誌. 2022. 60. 大会抄録号. 139-139.
- 4) Anna Surtel et al. The influence of breathing mode on the oral cavity. *Pol Merkur Lekarski.* 2015 Dec ; 39(234) : 405-7.

全国健康づくり推進学校表彰校の実践 ④

令和6年度最優秀校 横浜市立青葉台中学校

互いに認め合い、自己を大切に、自分の成長や課題解決に向けて 主体的に行動できる子どもの育成 ～学校保健組織活動の有機的な連動を通して～

1 学校紹介

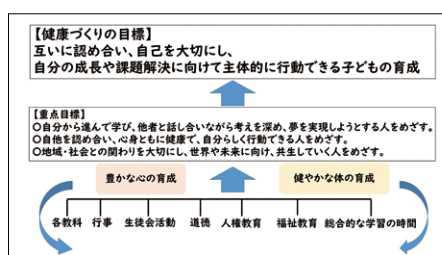
本校は、神奈川県横浜市の北部、東急田園都市線青葉台駅から徒歩8分、駅から南北に伸びる駅前商店街の通りから、わずかに坂を上った場所にあり、街の発展とともに生まれた比較的新しい中学校である。令和5年度に創立50周年を迎えた。

「自由と規律」を教育目標に掲げ、地域とともに歩み、50周年の歴史と伝統を継承しつつ、生徒は主体的に考え学び、多様な人々や社会と関わりながら、日々充実した学校生活を送っている。



2 学校経営方針と健康づくり

学校教育目標「自由と規律」の下、健康づくりに関する分野では「互いに認め合い、自己を大切に、自分の成長や課題解決に向けて主体的に行動できる子どもの育成」を目指している。生徒一人ひとりの健康課題を解決するための方策として、「授業・人・学びの場のつながり」を大切に、生徒の主体的な保健活動の実践や専門家、外部機関との連携、各教科・分野・領域等横断的な視点で活動を組み立てよう実践している。



3 健康づくりの実践

(1) 豊かな心の育成

道徳・人権教育・福祉教育の担当者が中心となり、人権教育の推進、学校教育活動を通して行う道徳教育の充実、地域とつながる教育の充実、オペラ鑑賞会などの本物に触れる機会や体験を通して、豊かな人との関わりから、主体的に考え問題解決を目指す生徒の育成に取り組んでいる。

①人権教育の推進

だれにとっても大切にしたいこと、日常の思いやりの心によって守られなければならないもの、言葉にして意識したいこと、訴えたいことを話し合い、人権に関わる標語作りを行っている。また、作成した標語は学区の小中学校で交流し、他の人の考えを知り、様々な感じ方があることを理解する取組を行っている。

②福祉体験の充実

自分たちの学校や地域を車椅子を使って移動し、簡単な介助をすることで車椅子利用者を理解し、すべての人が安心して生活できるように、自分たちにできることを考える機会としている。また、障害者スポーツ（車椅子バスケットやフライングディスク）の体験を通して共生社会の実現に向けた生徒の人権意識が高まるように取り組んでいる。

③総合防災体験

地域防災拠点にもなっており、3年生の生徒一人ひとりの防災意識を高めるとともに、災害発生時には、救護活動の担い手となることができるように消防署、水道局、区役所と連携し、各種講習を受講し、社会に貢献できる力や心を養う実習を行っている。



(2) 健やかな体の育成

保健体育科と保健指導部が中心となり基礎体力や運動技能の向上に取り組み、保健教育では計画的に外部関連機関と連携し、専門家による話を聞く機会を設けている。さまざまな教科・分野・領域の特性に応じて、相互に関連を図った指導の充実に取り組んでいる。

①健康教育の充実

外部講師と連携した薬物乱用防止教育や性に関する指導を通して、正しい知識だけでなく、社会的課題

や自分の人間関係を振り返り、安心した関係や人とのつながり、今後の自己決定と健康保持増進のための自分の課題について考える機会としている。

②体力向上短縄活動

短縄活動は、授業の準備と関連させて、基礎体力の向上を目的としている。年間を通して短縄活動を実践し、新体力テストの結果では、瞬発力や持久力が高まる結果につながった。

③学校給食を活用した食育の実践

区内の栄養教諭と連携した食育推進ネットワークを活用し、食に関する指導を全職員の共通理解のもと実践している。また、授業のつながりを実践できる場(中学校給食メニューコンクールや区内小学校栄養教諭と連携したローリングストックレシピコンテスト)を設定し、活用できる力の育成をしている。

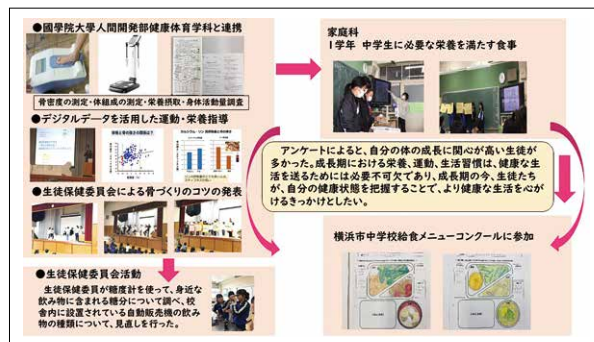
④安全教育の充実

学校安全計画に基づき、避難訓練を実施。保護者の協力もいただき、引き取り訓練も実施している。また、生徒が安全に行動できる力を身に付けることを目的とし、SNS安全教室、生活安全、交通安全、災害に関する情報を定期的に生徒に指導するなど、全教職員の理解と協力を得て組織的に取り組んでいる。

⑤全校生徒学校保健委員会

学校保健委員会は年2回実施している。学校保健委員会を効果的に機能させるため、生徒の健康課題の関心の高いテーマや、全校生徒へ実施した実態アンケート調査結果、デジタルデータを活用することにより、生徒自身が健康への関心や健康づくりへの意欲を高め、自分の成長や課題解決に向けて主体的に行動できる生徒の育成をねらいとしている。全体会の発表内容や構成は生徒保健委員会が企画している。会に参加できなかった家庭とも会の内容を共有するために、学校保健委員会特別号として保健だよりを発行し、家庭や地域への広報や啓発活動に取り組み、連携強化を図っている。取り組んだ内容が継続できるように、各教科・分野・領域の特性に応じて、相互に関連を図った指導を継続的に行っている。学校保健委員会だけにとどまらず、他教科で学びを生かし、活用できる力を育成する機会を組織的に計画している。

自分の体をケアする～今から骨骨元気！
成長期の体づくりについて考えよう(令和2年度)



災害に備えよう～今、私たちにできること!!
(令和4年度)



(3) 主体的な生徒会活動

青葉台中学校の生徒会スローガンは“Make the best”＜最高を作る＞である。笑顔あふれる過ごしやすい学校、みんなにとって、最高の学校を生徒会活動から作っていきたいという思いがある。そのスローガンを意識し、各委員会が特に「絆計画」を意識しながら、活発に活動している。教育課程で学んだ知識を活用し、各委員会の生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な活動を通して、学校生活の充実と向上、地域・社会との関わりを大切に、世界や未来に目を向け、生徒の立場から自発的・自治的に取り組んでいる。



4 今後の課題と対策

生徒の健全な成長を実現するため、「健康教育の指導内容の工夫と実践の継続」が課題としてあげられる。対策として、「授業・人・学びの場のつながり」を大切に、外部講師を招き、専門的な知識や体験を取り入れた内容の充実をさらに図り、計画の見直しや工夫をし、各教科や領域と関連付け、計画的・組織的に学校・家庭・地域・外部講師が一体となり「チーム学校」として、継続した取組に努めていきたい。

シリーズ 110

「健康教育をささえる」

～学校薬剤師の現場から～

揮発性有機化合物（エチルベンゼン）室内濃度指針値改定と
学校薬剤師の対応日本薬剤師会 学校薬剤師部会 幹事 かわむら じん 川村 仁

1. 改定概要と背景

令和7年1月17日、厚生労働省は室内空気中の化学物質に関する基準を改定し、エチルベンゼンの指針値が従来の $3,800\mu\text{g}/\text{m}^3$ から $370\mu\text{g}/\text{m}^3$ （ 0.085ppm ）へと約1/10になりました。これを受け、文部科学省は2月21日付で教育委員会等に学校での対応方協力依頼を发出了しました。

今改定は、ラットを用いた13週間の吸入試験において、耳の細胞が壊れて聴覚に影響が出た濃度200ppm（最小毒性量＝LOAEL）を起点とし、ヒトが24時間・週7日吸入した場合に換算し、動物実験からヒトへの違いを考慮した安全係数10倍、体質などの個人差を見込む安全係数10倍、さらにLOAELから影響が出ない量（無毒性量＝NOAEL）へ換算するための安全係数5倍を重ね、最終的に $370\mu\text{g}/\text{m}^3$ が導き出されました。

さらに、ヒトを対象とした研究でも、エチルベンゼンの長期吸入と聴力低下との関連が示され、とくに騒音環境との相互作用が懸念されています。

2. エチルベンゼンの化学的特性と室内での由来

エチルベンゼン（ $\text{C}_6\text{H}_5\text{--CH}_2\text{CH}_3$ ）は無色透明で、油性ペンキやシンナーに似た甘さを伴う強いにおいをもつ液体で、芳香族炭化水素の一種として揮発性有機化合物に含まれます。常温で揮発しやすく（ 20°C での蒸気圧約 9.5hPa ）、空気中に広がりやすい性質があります。水にはあまり溶けません（ 20°C で約 $152\text{mg}/\text{L}$ ）が、空気中では容易に拡散します。

室内での主な発生源は、油性塗料や接着剤、床材や壁材の仕上げ溶剤、発泡スチロール製品、印刷インク、理科や美術の授業で使われる溶剤、保管中のシンナー類などに含まれます。

特に新築や改修の直後、新しい備品の搬入後には放散量が増えやすく、換気不足の環境では濃度が高くなりやすい点に注意が必要です。

3. 毒性と児童生徒への影響

急性の影響としては、目や鼻・のどの刺激、頭痛、めまい、倦怠感など中枢神経に関わる症状が報告されています。

長期の影響では、聴覚への影響が最も重要であり、動物実験では耳の蝸牛外有毛細胞の変性が確認されました。今回の指針値改定は、このような聴力への影響を主な根拠としています。

一方で、国際がん研究機関（IARC）によって「発がん性分類2B（ヒトに対して発がん性の可能性がある）」に位置付けられていますが、“可能性がある”という段階の評価であり、今回の指針値改定は発がん性を直接の理由としたものではありません。

学校環境下では、児童生徒は体格が小さく、呼吸量あたりの吸入量が多い上、学校での滞在時間も長いため、低濃度でも影響を受けやすいと考えられます。特に吹奏楽部や音楽室などの高騒音環境では、騒音と化学物質の複合的影響による聴覚リスクが高まることに注意が必要です。

4. 測定方法：標準法と検知管法

エチルベンゼンの測定については、厚生労働省の「測定マニュアル（統合版）」に基づき、固相吸着-GC/MS法（ガスクロマトグラフ質量分析法）が標準的測定法として規定されています。これは精度が高く、公定法として指針値適合を厳密に判断する際に用いられます。

一方、検知管法は学校環境衛生管理マニュアルにおいて「同等以上の方法の例」として、低濃度に対応できる検知管を用いた測定にも言及があります。現場や機材状況に応じて柔軟に活用できるよう配慮された記載と理解できます。ただし、検知管法は標準法の代替ではなく、簡易測定や日常確認の補助的手段にとどまります。指針

値付近や上昇傾向が見られる場合は GC/MS による標準法で確認することが適切です。

文部科学省は厚労省の改定を踏まえ、「学校環境衛生基準」における基準値や検査方法の見直しを令和8年4月頃に予定し、関係機関には令和8年3月末までに新指針値対応を進めるよう求めています。したがって現段階では検知管法は補助的活用にとどめ、今後は正式な基準改定に沿った運用が必要となります。

〔参考〕トルエン用検知管により製品固有の換算係数を乗じてエチルベンゼン濃度を算出する方法が技術的に知られており、新たに検査を実施する際の簡易確認に用いることも可能です。ただし、これは参考的な方法にすぎず、最終判定は GC/MS 標準法で行う必要があります。

5. 基準値超過時の対応と予防策

【即時対応】

- ・測定結果が基準値を超過した場合、直ちに当該教室または施設の使用を中止し、児童生徒を安全な場所へ移動。
- ・窓や扉を全開にして自然換気を行うとともに、可能であれば機械換気設備を最大出力で稼働。
- ・暖房や空調を併用して室温を安定させ、揮発性有機化合物（VOC）の放散量増加を抑制。

【原因調査】

- ・直近で行われた内装工事、塗装、ワックス塗布、床材・壁材の張替え、新規什器備品搬入などを記録から確認。
- ・化学薬品の使用履歴（美術室、技術室、理科室、印刷室など）を点検。
- ・必要に応じて簡易的な確認（例：検知管によるスクリーニング）を行い、発生源の推定に役立てます。ただし、最終的な濃度判定や適合確認は必ず GC/MS による標準法で実施。
- ・外気濃度も確認し、外部由来の可能性を除外。

【短期対策】

- ・発生源が特定できた場合は即時撤去または密閉保管を実施。
- ・什器備品等の配置見直し、換気効率が高まるようレイアウト変更を実施。
- ・放課後や休日にも換気を継続し、揮発性成分の低減を加速。

【検査の実施機会】

今回のエチルベンゼンの指針値強化により、従来の定期検査に加えて、改築や大規模改修、新規什器備品等の搬入など、環境条件が大きく変化する際にも検査を行うことが求められます。

これにより、児童生徒の曝露リスクを早期に把握し、必要な対策を迅速に講じることが可能となります。

【恒久対策】

- ・内装や備品選定において、低 VOC 認証製品や日本接着剤工業会（JAIA）適合 F☆☆☆☆規格品を採用。
- ・工事や備品搬入は長期休暇中に行い、使用開始前に十分な換気期間を設けます。
- ・引渡し時に GC/MS による適合確認を契約条件に含めます。
- ・換気設備の能力を定期的に点検・清掃し、必要に応じて増設や高性能フィルタの導入を検討。

【予防策】

- ・定期的に簡易的な確認（例：検知管によるスクリーニング）を行い、長期的な濃度推移を把握します。必要に応じて GC/MS で精密測定を実施。
- ・VOC 発生源となる資材や薬品は密閉容器に保管し、使用時は必ず換気を実施。
- ・教職員や生徒に対して、化学物質使用時の安全対策や換気的重要性を周知徹底。
- ・環境衛生点検のチェック票に VOC 対策項目を追加し、日常的に確認。
- ・学校薬剤師、自治体及び専門業者等と連携し、最新の測定技術や対策事例を導入。

6. まとめ

エチルベンゼン指針値改定は、まだ学校環境衛生基準に正式反映される前段階にありますが、学校現場における備えを促す重要な契機となっています。この改定は単なる数値の変更ではなく、児童生徒の健康を守るための新たな一歩と位置付けられるべきでしょう。

測定方法や超過時の対応、予防策の詳細は本文で示しましたが、実際に求められるのは、それらを現場の健康教育にどのように結び付けるかではないでしょうか。換気の徹底や資材管理といった実践を、臨時検査および定期検査を通じて、学校薬剤師として教職員や児童生徒と共有し、学校全体で健康への意識を高めることが欠かせないと考えます。

この改定は、学校薬剤師が「学校環境衛生および健康教育を担う専門職」であることを改めて示す機会であり、今後の正式な基準改定を見据えて、現場における取組を積み重ねていくことが期待されます。

医学生によるがん教育推進協会 活動のご紹介



医学生によるがん教育推進協会 代表理事 みなみたに まさなり 南谷 優成

■ ご存じですか？無料でがん教育ができる仕組みがあることを

文部科学省では、がん教育における外部講師の活用が推奨されています。

しかし、実際には全体の12.5%しか利用が進んでいないのが現状です。

現場からは、「誰に依頼すればよいのか分からない」「費用面の負担が大きい」といった声が多く寄せられています。

この課題を受け、東大病院のがん専門医が中心となり、医学生とがん経験者による高品質な出前授業を全国で無償で実施できる非営利団体を設立いたしました。

本取り組みは、文部科学省の後援も得て推進されております。



■ なぜ無料でできるの？

ボランティアの医学生に協力してもらうことで、講師の費用が不要になります。

また法人の運営資金は企業からの寄付で賄っています。

■ 品質は大丈夫なの？

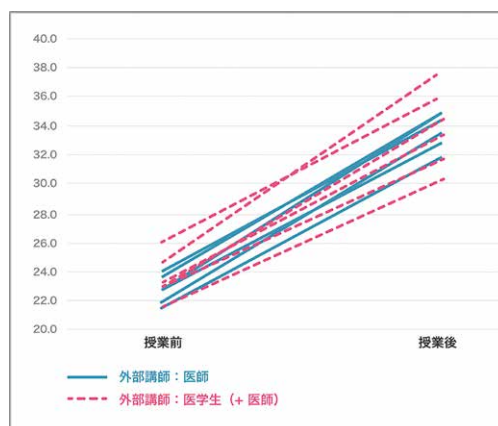
医師が授業や資料の監修をすることで品質を担保しています。

医学生が実施する授業は、医師単独での実施と習熟度合いに差がないという調査結果もでています。

ニアピア学習(*)により、医師や看護師などの医療スタッフ、がん経験者などより、年齢も近く身近な存在、また憧れの対象にもなりうる医学生から授業を受けることで、子どもによりがん教育を印象づけることができます。

*年齢や経験が自分より少し上の「近い先輩」から学ぶこと。

2024年度 東京大学 授業前後のリテラシー向上に関する調査



■ 授業実施実績 (2025年9月8日 現在)

これまでに東京成徳大学中学校・高等学校（東京都北区）や品川区立戸越台中学校（東京都品川区）等、22校で授業を実施し、生徒からは「今から予防を意識したい」、先生からは「医学生の話が身近で分かりやすかった」とのお声をいただきました。学校・医学生・子ども・地域それぞれに意義ある学びの場となっています。

※過去の授業実績は、右のQRコードよりご覧いただけます。



法人概要

名称	一般社団法人 医学生によるがん教育推進協会
設立年月日	2024年12月12日
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂4丁目8番19号 赤坂フロントタウン3階
代表者	代表理事 中川恵一 (東京大学医学部医学系研究科総合放射線腫瘍学講座 特任教授) 代表理事 南谷優成 (東京大学医学部附属病院放射線科 助教)
HP / メール	https://gankyouiku.org / office@gankyouiku.org



○代表理事 中川恵一

若い世代にがんの正しい知識を届けることは、将来の予防に直結します。
当法人では、医学生と学校をつなぎ、子どもたちには健康的な生活を選ぶ力を、医学生には責任感や社会貢献の意識を育む機会を提供しています。
これまでの経験を活かし、がん予防教育の新しい形を広げてまいります。



○代表理事 南谷優成

学校教育でがん教育は必修化されましたが、外部講師不足が課題です。
私たちは医学生が授業を担う仕組みを通じ、子どもたちには年齢の近い立場から親しみやすく学べる環境を、教育現場には新たな選択肢を提供します。
医学生にとっても学びと成長の機会となる本取り組みを全国へ広げ、より多くの社会的価値を生み出していきたいと考えています。

出前授業のお申込み方法

- ・右記 QR、学校の登録フォームより必要事項をご入力の上お申込みください。
- ・登録後、授業実施に向けお打合せを行います。

※全国の学校様に無料でご利用いただけます。

※授業実施にあたり、プロジェクターやスクリーン、マイクなどをご用意いただいております。



セミナーのご案内

学校における がん教育のこれまでとこれから

座 長: 中川恵一(東京大学医学部医学系研究科総合放射線腫瘍学講座 特任教授)

演 者: 南谷優成(東京大学医学部附属病院放射線科 助教)

日 時: 2025年 12月 26日(金) 13:00～ 14:00

開催形式: オンライン

参加費用: 無料

参加特典: がん教育に関する資料、

教材(指定の HPよりダウンロードいただけます)

主 催: 東京大学医学部 医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座

共 催: 一般社団法人 医学生によるがん教育推進協会

申込方法: QRを読み込んでいただき、必要事項をご記入の上、お申込みください。



全国学校保健主事会の活動

全国学校保健主事会 会長 さえき たかし
兵庫県西宮市立山口小学校 校長 佐伯 孝司

はじめに

全国学校保健主事会は、全国の府県及び政令指定都市の学校保健主事会（保健主任会）で組織されています。本会は、心身共に健康でたくましく生きる児童生徒の育成を願い、学校保健に関する今日的な諸課題について調査研究を推進するとともに、学校現場における調整役としての保健主事の職務やマネジメント力を生かした効果的な職務遂行について実践的に研究し、保健主事の資質向上及び学校保健安全の向上とその推進に寄与することを目的とした全国組織です。しかし、令和6年度末に6府県市が本会を脱会してしまい、令和7年度の加盟府県市数は24となりました。現在の本会の加盟府県市は、東北・関東・近畿・中国の各ブロックとなりました。本会は全国大会を各県持ち回りで実施してきましたが、ブロックのバランスが悪くなり、保健主事の研修としての全国大会を地方ブロックで実施することが難しくなっています。

第68回全国学校保健主事研究大会（本部開催）報告

日 時：令和7年（2025年）7月29日（火） 9：30～16：00
場 所：ホテルスプリングス幕張 プレミア スプリングスホール（千葉県）
主 題：「自ら守り育てる心とからだ」
講 演：講師 千葉県 船橋市立宮本中学校 主幹教諭 永井 恵
演題 マイノリティを取り残さない学校づくり～LGBTQ等に関する理解と対応～
特別講義：足育について （公財）日本学校体育研究連合会
行政説明：文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 岩田 悟
研究発表：①宮崎県立延岡しろやま支援学校 保健主事 村田 美樹
②秋田市立東小学校 昨年度保健主事 藤澤 真奈
③倉敷市立精思高等学校・霞丘校 保健主事 池田 遼弥

今年度の全国大会は本部開催ということで、全国学校保健主事会の役員・理事・評議員が実行委員となって大会を運営しました。千葉を会場にして大会を行いましたので、千葉県の参加者が多かったですが、南は鹿児島から北は青森まで参加があり、保健主事の研修として内容の濃いものになりました。保健主事が、その職務をどのように推進すればよいのか、子供たちの健康の保持増進のために学校・保護者・地域がどのように連携して学校保健を推進すればよいのかを研修し、各府県市へ持ち帰りました。

また、千葉県内では保健主事の研修として位置づけていたため、千葉県内からの参加がとて多く、大会への参加というよりも一つの研修として参加された先生が多く、千葉県にとっての大きなメリットだったと思っています。このように全国大会を自県で行うことは、運営面で大変なこともあります。県内の保健主事の資質向上のための一つの手立てとなりますので、ぜひ各県が全国大会を活用していただきたいと思います。

学校に伝えたいこと

各学校には保健主事が1名ずつ配置されています。保健主事の役割は学校長のリーダーシップの元で養護教諭と両輪となって、学校保健活動を推進していくことです。各学校や地域の健康課題を克服する取り組みを進めながら、児童生徒の心身の健康を生涯にわたって維持増進ができるようにする必要があります。

児童生徒数の少ない小規模校では、保健主事を養護教諭が兼務している場合があると思います。そうすると、養護教諭一人に業務が集中してしまっているかもしれません。働き方改革・業務改善が重要視されている現在において、養護教諭の職務が優先され保健主事の職務が後回しになってしまっていないかを心配をしています。そうならないように各府県市は保健主事の研修を行い、その職務について理解を深め、実効性のある取り組みが各学校でできるように工夫をお願いします。

また、組織的に保健主事の研修ができる組織を構築していくことも一つの方法です。新しい組織を作ることは難しいかもしれませんが、組織を作ることによって継続して研修を進める土台を作ることができると思っています。

令和7年度 各地区ブロック大会報告

第58回東北ブロック大会報告

生涯を通じて、心身ともに健康で、
たくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進

- 期 日：令和7年8月7日（木）
会 場：・盛岡市民文化ホール
・盛岡地域交流センター（マリオス）
内 容：
1 開会行事
2 記念講演
演題「児童生徒の健やかな体づくりに向けた食の重要性について」
講師 管理栄養士／栄養教諭 松丸 奨 氏
3 分科会
①メンタルヘルスや性の問題など、多様化・複雑化する現代的健康課題
②喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、医薬品に関する教育、学校環境衛生
③歯と口の健康づくりと食生活
④安全教育・安全管理

令和7年8月7日（木）、岩手県盛岡市において「生涯を通じて、心身ともに健康で、たくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進～自ら進んで健康づくりに取り組む子どもの育成～」をテーマに標記大会が開催され、東北各県から学校保健関係者約450名が参加しました。

記念講演では、管理栄養士／栄養教諭の松丸 奨氏より「児童生徒の健やかな体づくりに向けた食の重要性について」と題して御講演をいただき、多くの実践を交えたお話で、子どもたちへの食育の在り方について分かりやすくご示唆いただきました。

また、分科会では実践発表と研究協議が行われ、どの分科会においても活発な意見交換がなされ、今後の実践に活かすことのできる有意義な大会となりました。



第76回関東甲信越静学校保健大会

豊かな心と健やかな体を育む
ウェルビーイングの向上を目指して

- 期 日：令和7年8月7日（木）
会 場：TKP ガーデンシティ千葉
内 容：
(1) 開会行事
(2) 特別講演
演 題「車いすになってよかった」
講 師 SMBC グリーンサービス株式会社
東日本人事部
東京 2020 パラリンピック、パリ 2024
パラリンピック銅メダリスト
村山 浩 氏
(3) 班別研究協議会
①学校経営と学校保健
②健康教育
③いのちの教育
④学校歯科保健
⑤学校環境衛生と安全教育
(4) 職域部会
①学校医協議会（主催 公益社団法人千葉県医師会）
②歯科職域部会（主催 一般社団法人千葉県歯科医師会）

千葉県千葉市において、関東甲信越静地区11都県から500名以上（オンデマンド配信による参加者を含めると約700名）の参加者を迎え、標記大会が開催されました。特別講演では、東京2020パラリンピック・パリ2024パラリンピック銅メダリストの村山 浩氏に「車いすになってよかった」と題した講演をいただきました。歩行困難となってからパラバドミントン選手として御活躍されるまでの半生を振り返りながら、車いす生活になったことで御自身の世界を広げることができたことなど、子供たちのウェルビーイングの向上について考える上で、大変参考になるお話を伺うことができました。

班別研究協議会では、実践発表と研究協議が行われました。現代的健康課題の解決に向けて、実践に即した活発な意見交換がなされ、大変有意義な協議を行うことができました。



第24回四国学校保健研究大会

生涯にわたり、心身ともに健康で
たくましく生きる児童生徒の育成
－ 現代的課題に対応する健康教育の推進 －

期 日：令和7年8月19日（火）

内 容：

- 1 開会行事
- 2 記念講演
演題「あらためて起立性調節障害を考える」
講師 東京医科大学小児科・思春期科学分野
准教授 呉 宗憲 氏
- 3 校種別研究発表会
 - 小学校部会 発表テーマ
 - ・自らよりよい睡眠習慣の形成に向け実践できる児童の育成 (他2題)
 - 中学校部会 発表テーマ
 - ・心の教育を基盤としたウェルビーイングの実践～保健主事の視点からの取組～ (他2題)
 - 高等学校・特別支援学校部会 発表テーマ
 - ・生活習慣の改善に向けた効果的な取組をめざして (他2題)

令和7年8月19日（火）、四国四県から約400名の参加者を迎え、徳島市において標記研究大会を開催しました。

開会行事に引き続き、東京医科大学小児科・思春期科学分野 准教授 呉 宗憲氏より、「あらためて起立性調節障害を考える」と題して御講演をいただきました。起立性調節障害について学びを深めるとともに、病名だけにとらわれずに子どもの困りごとを理解し、どのように支援していくか考える機会となりました。

午後は、小学校部会、中学校部会、高等学校・特別支援学校部会の3部会で研究発表を行い、各協議題にそって熱心な意見交換や情報交換が行われました。各県の関係者並びに参加者の皆様の御協力により、実りの多い研究大会となりました。



第69回中国地区学校保健研究協議大会

生涯を通じて、心豊かに
たくましく生きる力を育む健康教育の推進

期 日：令和7年8月21日（木）

内 容：

- (1) 開会行事
- (2) 特別講演
 - ・演 題 「教育と医療の連携で取り組む不登校予防」
 - ・講 師 国立病院機構 南和歌山医療センター
小児科・小児アレルギー科医長
土生川 千珠 氏
- (3) 職域部会（3部会）
 - 学校薬剤師部会（シンポジウム）
 - ・テーマ「最近のオーバードーズへの対応について」
 - 校長・園長部会、学校保健・安全担当教員部会（講演）
 - ・演 題 「災害に強い仲間づくり・地域づくり」
～教職員が知るべき防災知識のアップデート～
 - ・講 師 一般社団法人 レベルフリー 代表
坂本 京子 氏
 - 養護教諭部会（シンポジウム）
 - ・テーマ「学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室経営の進め方」
 - ・コーディネーター 山口県立大学
看護栄養学部看護学科 教授 丹 佳子 氏
- (4) 班別研究協議会（5班）
 - 保健安全教育
 - 性に関する指導・エイズ教育
 - 歯と口の健康づくり
 - 心の健康づくり
 - 学校環境衛生・薬物乱用防止教育

令和7年8月21日（木）、山口県山口市において「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」をテーマに標記大会が開催され、中国地区各県から約350名の学校保健関係者が参加しました。

特別講演では、南和歌山医療センター 小児科・小児アレルギー科医長 土生川 千珠先生より「教育と医療の連携で取り組む不登校予防」と題して御講演いただきました。社会問題である不登校について、「こころの学校健診」等の大変参考となるお話を伺うことができました。

午後からの職域部会では講演やシンポジウムが、班別研究協議会では各県の実践に基づく研究発表と協議が行われました。どの部会においても活発な意見交換がなされ、今後の実践に生かすうえで大変有意義な大会となりました。



全国養護教諭連絡協議会 第31回研究協議会のお知らせ

主 題

「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」
～令和の日本型学校教育を担う養護教諭の専門性～

開催日時

令和8年2月13日(金) 10:00～16:35 (受付9:30～)

会 場

有楽町朝日ホール (〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン11階)

内 容

特別講演

「睡眠の謎に挑む～健やかな睡眠から始まるウェルネス～」

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構

機構長・教授 柳沢 正史 氏

基調講演

「これからの学校保健と養護教諭に求められるもの」

文部科学省総合教育政策局 健康教育・食育課

健康教育調査官 川畑 千種 氏

フォーラム

「学びの高度専門職としての魅力ある養護教諭」

～子供たち・学校の課題に対する養護教諭の実践～

コーディネーター

淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科 教授 岩崎 順子 氏

シンポジスト

4名(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)

申込期間

令和7年12月1日(月)10:00～令和8年1月30日(金)17:00

*お申込み、詳細につきましては、全国養護教諭連絡協議会ホームページ(<https://www.yougo.jp>)
をご覧ください。

*多くの皆様のご参加をお待ちしております。



令和7年度文部科学省補助事業

日本学校保健会主催 研修会のお知らせ

学校環境衛生研修会

山形県開催

日 付 令和7年12月4日(木)

会 場 山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング

参加
無料



栃木県開催

日 付 令和8年1月29日(木)

会 場 栃木県総合文化センター サブホール

研修会案内
ページはこちら



令和7年度～令和8年度 公益財団法人日本学校保健会 役員（理事・監事）一覧

会 長

松本 吉郎 (公社) 日本医師会会長

副会長

渡邊 弘司 (公社) 日本医師会常任理事
 ⑨菊岡 正和 神奈川県学校保健連合会前会長
 柘植 紳平 (公社) 日本学校歯科医会会長
 荻野 構一 (公社) 日本薬剤師会副会長

専務理事

弓倉 整 学識経験者

常務理事

衛藤 隆 学識経験者、東京大学名誉教授
 竹内 純子 (公社) 日本学校歯科医会常務理事
 富永 孝治 (公社) 日本薬剤師会常務理事
 駒田 幹彦 学識経験者
 (一財) 三重県学校保健会前会長
 尾崎 治夫 (一財) 東京都学校保健会会長
 ⑨安東 範明 奈良県学校保健会会長

理 事

松家 治道 (公財) 北海道学校保健会会長
 佐藤 和宏 宮城県学校保健会会長
 恵比須 享 神奈川県学校保健連合会評議員
 ⑨堀地 肇 富山県学校保健会副会長
 ⑨伊在井みどり 岐阜県学校保健会会長
 ⑨林 伸樹 兵庫県学校保健会副会長
 ⑨加藤 智栄 山口県学校保健連合会会長
 ⑨船井 守 高知県学校保健会副会長
 ⑨牧角 寛郎 鹿児島県学校保健会会長
 ⑨安藤健二郎 仙台市学校保健会会長
 ⑨岡野 敏明 川崎市学校保健会会長
 柏井真理子 (公社) 日本眼科医会副会長
 野上兼一郎 (一社) 日本臨床耳鼻咽喉科医会副会長
 (一社) 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事
 ⑨松原 修 全国連合小学校長会会長
 ⑨佐藤 晴美 全日本中学校長会
 勝嶋 憲子 全国高等学校長協会
 佐伯 孝司 全国学校保健主事会会長

公益財団法人日本学校保健会

令和7年度

第1回定時評議員会・ 第2回理事会を開催

日本学校保健会では去る6月19日、令和7年度の第1回定時評議員会・第2回理事会を開催いたしました。

第1回定時評議員会では、令和6年度の事業報告及び決算の承認、また令和7・8年度の理事及び監事が選任され、これを受けて行われた第2回理事会では、松本吉郎会長ほか副会長、専務理事、常務理事が選任されました。

⑨吉田 真弓 全国養護教諭連絡協議会会長
 ⑨本橋 由江 (公社) 全国学校栄養士協議会副会長
 丹羽 寛美 (公社) 日本PTA全国協議会理事
 植田 誠治 学識経験者
 (一社) 日本学校保健学会理事長

監 事

森本 紀彦 (一社) 島根県医師会会長
 ⑨佐々木貴浩 (公社) 日本学校歯科医会参与
 堀越 博一 (公社) 日本薬剤師会常務理事

名誉会長

横倉 義武 (公社) 日本医師会元会長
 (公財) 日本学校保健会元会長

顧 問

道永 麻里 (公社) 日本医師会前常任理事
 (公財) 日本学校保健会前副会長
 ⑨中目 千之 山形県医師会顧問
 山形県学校保健連合会前会長
 (公財) 日本学校保健会前副会長
 齋藤 秀子 (公社) 日本学校歯科医会参与
 (公財) 日本学校保健会前副会長
 ⑨田尻 泰典 (公社) 日本薬剤師会前副会長
 (公財) 日本学校保健会前副会長

* 役員の任期は令和7年6月19日から令和9年定時評議員会の終結の時まで（2年間）

* 評議員会に諮って、会長が委嘱する。

虎ノ門 (194)

私たちは、なぜ食べるのか

「私たちは、なぜ食べるのか。」この問いは、栄養教諭として児童生徒に食の重要性を伝える際に、常に立ち返るべき根源のテーマと言えます。

昨年度、市内中学校の食育授業で、私は子どもたちに「私たちは、なぜ食べるのか。」と問いました。すると、「おなかがすくから。」「おいしいから。」「体を大きくするため。」など、様々な回答が見受けられました。食べることを一言で言い換えるのならば、生きることになるのかもしれませんが、食べることは、単なる栄養補給ではありません。もちろん、生命維持という生理的役割もありますが、食べることで、ストレス解消など、心理的役割も担っています。

さらに、食は人間関係の構築にも寄与し、社会的役割も果たしています。学校給食の時間において、同じ食事を供することは、子ども同士の安心感を醸成し、コミュニケーションの活性化を促します。共食を通じて築かれた関係性が信頼を深めることは、「同じ釜の飯を食う」という慣用句にも

象徴されています。

また、食文化と称されるように、食には文化的役割もあります。私は福島県喜多方市出身で、同地は「ラーメンの町」として広く知られています。私が、ラーメンの香りをかぐと故郷を思い出すように、地域の食文化は、アイデンティティ形成や地域への帰属感、社会との絆を感じる契機にもなり得ます。

結びに、私は栄養教諭として、子どもたちには、生涯にわたって食を楽しめる人になってほしいと願っています。食は多様な役割を内包していることから、私は給食を通して、子どもたちの心身の健やかな健康を支えるとともに、日々の食育を大切にしながら、食の楽しさと重要性を伝えていきたいと考えています。

(会報『学校保健』編集委員会 委員 いしい さち恵 石井 幸恵)



お子さまのコンタクトも

はじめは メニコン。

はじめての疑問に メニコンが答え!

何歳くらいから
はじめられるの?

どんな種類が
あるの?

詳しくはこちらをCHECK!



◆日本学校保健会推薦用品

ニージェのゴア®羽毛掛けふとん・合掛けふとん・肌掛けふとんは、日本学校保健会の推薦用品です。

TUK 東洋羽毛工業株式会社

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5

お客様相談室 0120-410840
<https://www.toyoumo.co.jp>



Johnson&Johnson

もっと知ろう、もっと守ろう、目の健康。

「めまもり」プロジェクト



Quality of Vision 100



＼コンタクトレンズをお使いのみなさん／

痛い目に、あう前に。
定期検査を受けましょう。

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー 登録商標 ©J&J KK 2025

公益財団法人神経研究所 睡眠健康推進機構

共催：公益財団法人日本学校保健会

後援：文部科学省

学校訪問型睡眠講座

～もっと知ってほしい「睡眠」のこと～

睡眠の大切さについて、
睡眠の専門家が遠隔または対面で講演をいたします。
対象：全国の小・中学校の生徒、教職員、保護者の方々

募集締切：2026年1月29日(木) 必着

申し込み方法・詳細：<https://www.jfnm.or.jp/nemurin/>2026年度
申請
募集

ねむりんねっと

検索

キシリトール入りの
ガムで
歯の健康づくり

2025年度「学校プログラム」 「楽しく学ぼう！歯の健康づくり」講座レポート

よく噛むことが健康の第一歩！体験で学ぶ“むし歯予防”の秘訣

専門講師：尾崎哲則 教授（一般社団法人 日本歯科医療管理学会 理事長）

企画・監修／共催：（公財）日本学校保健会

協力：株式会社ロッテ

恒例企画
となっている
「楽しく学ぼう！歯の健康づくり」。令和7年9月8日にこの講座を受けたのは南砺市立福光東部小学校（富山県）の4年生です。



講座では、尾崎先生が映像を使ってむし歯になるメカニズムやむし歯の予防法を解説。良く噛んで食べることや、フッ素を配合した歯磨き粉を使ってしっかりと歯を磨くことがむし歯予防の秘訣だと強調しました。また、むし歯菌が分解することのできない甘味料「キシリトール」についても触れ、児童は砂糖との違いを比較しながらキシリトールのむし歯予防効果を学習しました。

むし歯のメカニズムを理解した後は、お楽しみの咀嚼体験です。児童はカウントに合わせて、キシリトールを配合したブルーとピンクのガムを60回咀嚼。ガムの硬さや混ざり具合、唾液の分泌、

歯の表面の変化などを観察しながら、咀嚼の効果を楽しく体験しました。講座のまとめで尾崎先生は「歯の健康は、体そのものの健康と大きな結びつきがある」と伝え、規則正しく生活することや、定期検診を受けることの大切さを解説しました。

講座終了後、尾崎先生は児童とともに給食をとりながら、児童に食べる姿勢や噛み方などをアドバイスしました。給食を食べ終わると、今度は噛めば噛むほど色に変化する特殊なガムを見せ、児童それぞれのペースで噛んでもらう体験が始まります。児童はガムの色の変化を見て、良く噛めているかどうかを夢中になって確かめていました。



最後に、講座の内容をまとめた絵本を児童に贈呈。教室には「ありがとうございます！」という元気な声が響きました。